

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	九州大学
設置者名	国立大学法人九州大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令で 定める基 準単位数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学 部 等 共 通 科 目	専 門 科 目	合 計		
共創学部	共創学科		77		10	87	13	
文学部	人文学科		77			77	13	
教育学部			77		18	95	13	
法学部			77			77	13	
経済学部	経済・経営学科		77		26	103	13	
	経済工学科		77		26	103	13	
理学部	物理学科		83.5	2	15	100.5	13	
	化学科		83.5	2		85.5	13	
	地球惑星科学科		83.5	2	4	89.5	13	
	数学科		83.5	2		85.5	13	
	生物学科		83.5	2		85.5	13	
医学部	医学科		83.5			83.5	19	
	生命科学科		83.5			83.5	13	
	保健学科		83.5		42	125.5	13	
歯学部	歯学科		83.5		49.5	133	19	
薬学部	創薬学科		83.5			83.5	13	
	臨床薬学科		83.5		2	85.5	19	
工学部	建築学科		83.5	2	5	90.5	13	
	電気情報工学科		83.5	2	4	89.5	13	
	物質科学工学科		83.5	2	7	92.5	13	
	地球環境工学科		83.5	2	7	92.5	13	

	エネルギー科学科		83.5	2	2	87.5	13	
	機械航空工学科		83.5	2	9.5	95	13	
芸術工学部	芸術工学科		83.5		2	85.5	13	
	(環境設計工学科)		83.5	2	4	89.5	13	
	(工業設計工学科)		83.5	2	21	106.5	13	
	(画像設計学科)		83.5	2		85.5	13	
	(音響設計学科)		83.5	2	7	92.5	13	
	(芸術情報設計学科)		83.5	2		85.5	13	
農学部	生物資源環境学科		83.5	2	12	97.5	13	
21世紀プログラム			77			77	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://ku-portal.kyushu-u.ac.jp/campusweb/slbsskwr.do?clearAccessData=true&contenam=slbsskwr&kjnmnNo=10>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	九州大学
設置者名	国立大学法人九州大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/information/organization/officer/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	文化庁審議官	R1.7.9 ~ R2.9.30	総務、法務、労務管理、男女共同参画、社会連携
常勤	(株)南日本放送ニュースキャスター	H30.10.01 ~R2.9.30	広報、同窓会、九大基金、高大連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	九州大学
設置者名	国立大学法人九州大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)をシラバスシステム(以下のウェブサイト)に掲載している。</p> <p>到達目標及び成績評価の方法や基準を学生に分かりやすく説明するため、ルーブリックによる成績評価を導入している。</p> <p>授業計画(シラバス)の作成スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部事務部にてシラバス入力システムの準備 ・前年度1月にシラバスの入力を各教員に依頼 ・3月中旬ごろまでにシラバスの入力完了(1年分) 	
授業計画書の公表方法	https://syllabus.kyushu-u.ac.jp/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学生の学修支援及び教員の教育支援の一環として、学習支援システム(M2B(みつば)システム)を導入している。出席管理、資料や教材の配布など、教員と学生のコミュニケーションツールとして活用すると同時に、学習ログや日誌のテキストデータにより学習意欲や理解度を確認している。</p> <p>また、学修成果を測るための評価方法の一つとしてルーブリックを全学的に導入している。厳格かつ適正に評価するため、教員はあらかじめシラバスにルーブリックを明記し、評価方法を公表している。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA 制度について

大学の GPA は、履修登録した科目毎の 5 段階評価 (A・B・C・D・F) を 4 から 0 までの GP (Grade Point) に置き換えて単位数を掛け、その総和である GPT (Grade Point Total) を履修登録単位数の合計で割った平均点となる。

① 評語及び GP について

成績評価等は、以下の評語 (A～F・W・R) で表します。A～F には、それぞれ下記に示す GP を付与

評語		GP
A: Excellent	基準を大きく超えて優秀である	4
B: Good	基準を超えて優秀である	3
C: Satisfactory	望ましい基準に達している	2
D: Pass	単位を認める最低限の基準には達している	1
F: Fail	基準を大きく下回る	0
W: Withdrawal	履修中止 (3.各授業の到達度・履修上の注意・履修中止制度を参照)	-
R: Recognition	認定科目 (合否判定科目等。本学以外で修得した科目を単位認定したもの)	-

② 再履修科目の取扱いについて

履修する科目の評価が F あるいは D である場合に再履修することができる。その場合の評価 (GP) は再履修によって得た評価に置き換え、GPA に算入する。

③ 履修中止

履修登録後であっても、授業内容が想定していたものと異なっていたり、履修上必要な知識が不足している等の理由で、履修を中止したい場合は、各学部等で定められた履修中止申請期間内であれば、「履修中止」の措置をとることができる。この場合、履修放棄とはみなされず、従って GPA には反映されない。

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/gpa/
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針の策定については、学部ごとにディプロマポリシーを定めウェブページ上に公開している。

また、卒業認定方針の策定にあたっては、他の2つのポリシーとの間で整合性を保つことなど、専門的な見地から教育改革推進本部にてコンサルテーションにあたり、適切なポリシー策定に努めている。

卒業の認定にあたっての基準は学部規則を公表するとともに、学部ごとに学生便覧を作成し、卒業に必要な情報を学生に提供している。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education/>

<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/policy/undergraduate/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	九州大学
設置者名	国立大学法人九州大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements
収支計算書又は損益計算書	https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements
財産目録	-
事業報告書	https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements
監事による監査報告(書)	https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/financial_statements

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和2年度国立大学法人九州大学 年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kyushu-u.ac.jp/f/38742/nendoR2.pdf
中長期計画(名称:国立大学法人九州大学の中長期計画 対象年度:平成28年度~平令和3年度)
公表方法: https://www.kyushu-u.ac.jp/f/32904/keikaku.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/hyoka-home/report/accreditation/pdf/26zentaiban.pdf
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www3.ir.kyushu-u.ac.jp/university-evaluation/report/accreditation
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 共創学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/policy)
(概要) 共創学部は、現代社会が直面する問題について、自ら設定した課題に応じて課題解決を 構想するにあたって必要なことを学び、他者との協働による学びや留学等による経験を通じて、新たな知や価値を生み出す共創の専門性を身につけたグローバル人材を組織的に養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/policy)
(概要) 共創学部で学んだ学生は、卒業 (学位の授与) に際して、学生一人ひとりが次の 4 つの力を獲得することが期待される。 ・「コレを学んだからコレをする」という専門性を先行させるのではなく、「コレをした いからコレを学ぶ」という「能動的学習能力」 ・現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせる解決方策を 探究する「課題構想力」 ・構想した課題解決方策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で 協働し実現可能な解決方策を創造する「協働実践力」 ・解決策の実行のために多くの人にその内容を説明し理解と協力を得ることのできる「国 際コミュニケーション力」 共創学部は、これら 4 つの態度・能力の修得を通して獲得される能力を「共創的課題解 決力」と呼び、4 年間の学部教育をとおして共創的課題解決力を身につけた卒業生は、実 務、専門、研究の各領域において、グローバルな課題解決のために活躍することが期待さ れる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/policy)
(概要) 共創学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げた「能動的学習能力」「課題構想力」「協 働実践力」「国際コミュニケーション力」及びそれらの態度・能力の修得を通して獲得さ れる「共創的課題解決力」を、次の教育課程編成・学修方法・学修成果評価の方法を通し て実現します。 ●能動的学習能力 「もの見方・考え方・学び方」を学ぶ「基幹教育科目」を通して実現する。 ●課題構想力 「現実の問題に対応するため適切に課題を設定し、既存の学知を組み合わせる解決方策を 探究する能力」は、1 年次後半から 2 年次にかけて提供する「共通基礎科目」において基 礎力を養ったうえで、2 年次以降に提供する「構想科目」における課題解決のための多様な 学問のアプローチの学びを通して育成する。 共創学部では、学部共通テーマとして「地球の持続可能性」を設定していますが、焦点化 する地球的・人類的課題の違いを考慮して、4 つのエリア (「人間・生命エリア」、「人と 社会エリア」、「国家と地域エリア」、「地球・環境エリア」) を設定する。

●協働的实践力

「構想した課題解決方策について他者と議論し、他者の知見や能力をも組み合わせる形で協働し実現可能な解決方策を創造する能力」は、「基幹教育科目」を通して培った基盤の上に、TBL/PBL を用いて、グループでさまざまな領域の複合した課題に取り組むことにより、個々人の知識や得意とする分野を活かしつつ、他者と協働して課題の解決に向けた手法や技法を学ぶ「協働科目」を通して育成する。

●国際コミュニケーション力

「解決策の実行のために多くの人にその内容を説明し理解と協力を得る能力」は、基幹教育科目で培った基盤の上に、様々な経験を通じて、異なる歴史的・文化的背景や価値観があることを認識し、言語能力（語学力）とコミュニケーション力の向上を図る「協働科目」及び「経験科目」を通して育成します。「経験科目」では、日本人学生は海外大学等への一定期間の留学等を、外国人留学生は原則として日本国内企業等におけるインターンシップを必須とする。

●共創的課題解決力

「各課題の解決へ向けて、ディシプリンベースの様々な方法論を他者との協働を通じて有機的かつ最適に連携させることにより課題解決に創造的に取り組む能力」は、自分で設定した課題に対して、これまでに得た知識を組み合わせることで課題の解決策の創造に取り組む「共創科目-ディグリープロジェクト」を通して育成する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<http://kyoso.kyushu-u.ac.jp/policy>）

（概要）

共創学部では次の資質や能力、態度をもった学生を国内外から受け入れる。

「主体的自律性」創造的な学びのテーマを自ら設定し、既存の学問の枠組みを超えて、必要となる生きた知識や有用な技能を獲得しようとする主体的な態度を持っている。

「協働的学習能力」科学的探究活動や社会活動などについて優れた資質と豊富な経験を持ち、他者と協力しながら実効性のある活動を進めていくことのできる協働的な姿勢を持っている。

「多角的思考力」既存のさまざまな学問分野の基礎と応用を幅広く修得し、高度で複雑な社会的課題の解決のためにこれらの知を批判的に活用し統合できる思考力を持っている。

「国際的視野」国際社会に対する強い関心と多様な経験を有するとともに、世界を舞台にした活動に対する強い意欲をもち、これを実際に実現するための高い語学力を持っている。

| 1 | 求める学生像（知識、能力、適性等）

入学者受け入れの方針に挙げた4つの資質・能力は、それぞれ具体的に次のように説明されます。

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/organization/img/3policies.pdf)
(概要) 文学部は哲学・歴史学・文学・人間科学の視点から人間の在り方の全体を捉える知の営みに触れることを通して、適切な思考力と表現力、総合的なものの見方を身につけた人材を組織的に養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/organization/img/3policies.pdf)
(概要) A 知識・理解 <ul style="list-style-type: none"> ・人文学の基礎知識を踏まえて、現代人文学の視座の特質を理解できる。 ・専門分野の基礎知識に基づいて、人間と社会のあり方とそれへの多様なアプローチを理解できる。 ・「言葉」に対する自覚的かつ反省的な関わりを通じて、人間存在への理解を深める。 ・史資料・文献・作品の分析と解釈、および実地調査などに基づいて、世界における文化・歴史・社会の多様性と共通性を理解し説明できる。 ・現代世界における様々な人文現象や社会問題を、批判的視点から理解し説明できる。 B 技能 B-1 専門的能力 <ul style="list-style-type: none"> ・長い文化的伝統のなかで人類が生み出してきた知的所産である「古典」を、厳密に読解する能力を身に付けることができる。 ・専門分野の基本文献を精確に解釈、分析することができる。 ・外国語の運用能力を高め、自らの専門的知識を世界に向けて発信できる。 ・専門分野に固有の問題設定や研究手法を正しく身に付けることができる。 ・専門分野に必要な史資料や文献を収集、分析して、その内容を自分の言葉で精確に表現できる。 ・批判的な討論を通して、自らの意見をより客観的視点から組み立てる姿勢を養うことができる。 ・文献などの収集能力およびフィールドや実験などの研究能力と、それを系統立てて整理する論理的思考能力を、各研究分野と中等高等教育分野のほか、様々な職種へ活用できる。 B-2 汎用的能力 <ul style="list-style-type: none"> ・知識を総合的かつ有機的に把握する能力を身に付ける。 ・新たな視点から問題提起を行い、それを解決するための方法を提示する能力を身に付ける。 ・人文学を中心とした人文・社会科学の方法と思考能力を身に付ける。 ・専門分野の内容に関する深い理解と、学問固有の思考方法を獲得する。 ・学問的な討論の場を通して、自分の意見を精確かつ明確に表現する能力と他者の意見を理解するコミュニケーション能力を鍛錬し、広く世界と交流できる力を養う。 ・社会と学問の関わりについて、専門分野の学習を通して理解を深め、考える能力を身に付ける。 C 態度・志向性 <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで新しい問題に取り組む積極性を持つ。 ・史資料や文献、情報の収集と読解に地道に取り組む姿勢を持つ。 ・問題の解決にあたって様々なアプローチの可能性を考えようとする姿勢を持つ。 ・専門分野のみならず、幅広い知識と教養を身に付けようとする意欲を持つ。

- ・専門分野の発展へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。
- ・人文学の視点から人類や世界、地域社会への貢献を考える志向を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/organization/img/3policies.pdf>)

(概要)

初年次には、人文学の基礎的な知識の習得を目指すとともに、幅広く人間の創造力や知性に対する関心を養う。また2年次に進む専門分野を選ぶため広く人文学固有の思考や方法に触れる。専門分野に進んでからは、文献資料の収集や実験、実地調査など所属する専門分野における基礎的な技術と方法論を身につけ、それを深めるとともに、基本的な文献を読解する能力と、外国語の能力を高める。また学問的な討論の場を通して、異なる意見を理解し尊重することの大切さを学ぶとともに、自分の意見を適確に表現することの重要性を学ぶ。

3年次になると、人文学への幅広い関心や知識を育みながらも、卒業論文を視野に入れつつ、専門的な知識や技術を深めていく。4年次には、卒業論文の作成を具体的な目標とすることで、獲得した知識や情報を有機的に統合し、固有の思考や方法論への理解を深めるとともに、自ら問題を設定し解決していく姿勢を育む。また自分の意見を論理的に表現する能力を高める。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www2.lit.kyushu-u.ac.jp/organization/img/3policies.pdf>)

(概要)

文学部では、自ら問題を見出し、筋道を立てて思考し、精確に表現できる学生の育成を目指しています。そのためには、自らの足で歩き、目で見、手で触れ、他の人々と対話しつつ自らの考えを発展させていく姿勢が大切です。それゆえ、文学部で学ぼうとする者は、何よりも次の三つの資質を備えていることが望まれます。

1. 言葉への強い興味。とりわけ、文学作品や古典に対する感受性
2. 人間への飽くなき好奇心と、「私とは何か？」という真摯な問いかけ
3. 文化・歴史・社会といった、世界の多様性への開かれた関心

学部等名 教育学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.education.kyushu-u.ac.jp/outlines)</p>
<p>(概要) 教育学部は、人間に対する深い洞察と共感的態度を基盤に持ちながら、人間と人間のふれあう社会のさまざまな領域において創造的に問題解決できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.education.kyushu-u.ac.jp/outlines)</p>
<p>(概要) 教育学部は、教育と心理双方にわたる幅広い視野と基礎知識を備え、さらに理論的、実践的な専門知識を習得し、①教育学および心理学の各専門領域における実践家や専門家としての知識やスキル、すなわち現場の諸問題を分析・探究・解決するための能力を備えた人材、②教育学および心理学の各専門領域における研究者への道をめざすための基礎的な知識やスキル、すなわちディスカッション、プレゼンテーション、外国語論文の読解、学術論文の作成等に係る調査・研究を行うための基礎的な能力を備えた人材を養成する。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.education.kyushu-u.ac.jp/outlines)</p>
<p>(概要) 本学部の教育課程は、基幹教育から専攻教育へと幅広い知識・学問から教育学や心理学の特定領域へと焦点化させていくとともに、初年度の段階から教育学、心理学の基礎を学び、学年進行と共にその専門性を深めていくことを目指す。</p> <p>専攻教育に進学後は、本学部の長所である少人数教育の利点を生かしながら、人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を目指し、専門領域の学問の習得と共に、教育学と心理学の二つの領域を総合的に学びつつ、それらの融合を図っている。</p> <p>専攻科目はそれぞれの系やコースに沿って構成し、シラバス等において内容、評価基準等を明示しています。また、専攻教育段階では理論的な学習のみならず、調査研究の方法やスキルを演習、フィールドワーク、実験・実習などで、社会との連携を保ちつつ、学生が主体的かつ実践的に学べるよう配慮している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.education.kyushu-u.ac.jp/outlines)</p>
<p>(概要) 教育学部は人間の発達と成長を軸とした総合的な人間科学を学ぶところです。人間に高い関心を持っていることが大切な要件である。</p> <p>入学後にも、人間に関係する社会科学、人文科学、自然科学を学び続けます。そのために次のことを期待する。</p> <p>人間の教育や成長について学問的観点から科学的に考えることに興味と意欲があること いろいろな観点（ものの見方や考え方、価値観）や見地（異文化や国際的視点）に立って、多面的に議論し、考察ができること。</p> <p>基礎的な学力を十分に持っていること。そして入学後も、専門的な知識や能力の習得に、着実に取り組めること。</p> <p>知識を深め、視野を広げ、事実をもとに自分の着想と論点を構築し、まとめ、発表することを継続的に行えること。</p>

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/goals.html)
(概要) 法学部は、法学・政治学教育を通じて、地域社会、日本社会、国際社会にあってリーダーシップを発揮しうる創造性豊かな人材を組織的に養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/goals.html)
(概要) 知識・理解・専門的能力 1) 法学・政治学の概念・方法を用いて現代社会の諸問題を的確に分析・説明できる。 2) 法的・政治的諸問題の解決に向けた理論的・実践的対応策を構想する基盤的能力を習得する。 3) 法学・政治学的専門知識と技能に裏打ちされたコミュニケーション能力・情報発信能力を身につけ、広く世界と交流する視点を養う。 汎用的能力・態度・志向性 1) 高い人間性・社会性の陶冶：科学技術等の進展により、人間的価値が相対化されがちな現代社会にあって、高い人間性を追求し、社会から学ぶ姿勢と社会に働きかける姿勢の双方を持って、積極的に問題解決に取り組む態度を養う。 2) 高い国際性の育成：生活のあらゆる面で進行するグローバル化の潮流にあって、複眼的な視野を持ち、国家の枠を越えて発想できる豊かな国際性を育む。 3) 専門知識を自立的・主体的に学ぶ基盤的能力の育成：将来の法曹養成・高度職業人養成・生涯教育の基礎となる学識を十分に習得し、先端的な領域にも開かれた問題関心と学問観を身につける。 4) 柔軟で批判的・創造的な思考力の涵養：歴史や現実社会への深い知見に支えられた、創造性豊かな理解力・発想力、さらには情報発信能力を涵養する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/policies/2-1CP.pdf)
(概要) 本学部の教育カリキュラムは、大きく5つの分野（基礎法学、公法・社会法学、民刑事法学、国際関係法学、政治学）に分類される科目群を、学年進行と習熟度に応じて「積み上げ型」（入門科目、基盤科目、展開科目）に配置し、学生本人の興味や関心、そして将来の進路に沿って体系的・総合的に各授業を選択できる仕組みを提供している。 1年次は、文系・理系を越えた幅広い視点から、専門科目を学ぶための基礎教養を身につける「基幹教育科目」を履修します。2年次からは、法学部専攻教育科目の本格的な履修が始まります。法学・政治学の専門科目への導入教育を行う「入門科目」を皮切りに、すべての法学部生に共通の基盤的専門知識の習得を目指す「基盤科目」を軸としつつ、それを学生自身のニーズに即してより広い視野から、より高い専門性に向けて発展させる「展開科目」の履修に繋げていく。 本学部では少人数教育に特に力を入れています。2年生の法政基礎演習に続き、3年生からは演習科目（全員必修のゼミナール）や外書講読科目が開講されます。教員ごとに特色のある多彩なゼミナールの場では、学生自身の関心に即したテーマで研究・発表を行い、議論を重ねていく中で、教員・学生相互の人間的な連携を深め、主体性をもって自ら問い、論理的に思考し、表現する力を養います。研究成果をゼミ論文にまとめて提出させるゼミも多く、法学部教育の総決算的役割を果たしている。 このように、本学部のカリキュラムに沿って5つの分野を横断する系統的学修に取り組めば、法学・政治学の専門知識・技能に裏打ちされた問題分析能力・問題解決能力・構想

<p>力を着実に培うことができる。</p> <p>さらに、GV (Global Vantage) プログラムでは、大学院法学府 LL.M. プログラムへの進学に必要とされる英語力及び国際ビジネス法の基礎知識を修得できるように、通常のカリキュラムの範囲内で英語力を涵養するための少人数指導の授業を提供するほか、留学機会も確保している。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.law.kyushu-u.ac.jp/general/policies/1-1AP.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部を志望する学生には、法学・政治学を専門的に学ぶための前提として、現代社会の諸問題への関心はもとより、歴史・科学・文化・外国語などの基礎教養に裏打ちされた広い視野をもって勉学に取り組む意欲、自己の問題関心に即して主体的に学ぶ姿勢を期待しています。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史や社会問題に関心を持ち、解決すべき課題を自分で発見する力 2. 必要な情報を各方面から収集する技能 3. 情報の分析・加工を通じて自分なりの視点・意見を作り上げようとする意欲 4. それを他者の前でわかりやすく、論理的・説得的に説明する力 5. 他者との議論を通じて意見や価値観の多様性を学び、自己反省の機会を持って柔軟に修正案・改善案を見つける姿勢 6. 法的知識と語学力を身につけてグローバルな舞台で活躍しようとする意欲 <p>の6つです。本学部は、みなさんの持つこれらの潜在能力を伸ばし、将来への確かな地歩を築く場を提供します。</p>

<p>学部等名 経済学部</p>
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/gaiyou/)</p>
<p>(概要) 本学部は、経済学の基礎的学識と幅広い教養とともに、社会性と国際性とを身につけることによって、様々な分野で指導的な立場で活躍できる人材を養成する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/gaiyou/diplomapolicy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>○ 経済・経営学科</p> <p>A 知識・理解</p> <p>理論的・構造的視点から、今日の経済社会の動きについて説明できる。 歴史的・実証的視点から、産業の消長について説明できる。 経営学や会計学の視点から、企業活動の実態とあるべき姿等について説明できる。</p> <p>B 技能</p> <p>B-1 専門的能力</p> <p>現代経済社会が抱える問題を理論的・構造的視点から把握することができる。 現代経済社会の問題を分析し、問題解決の企画に取り組むことができる。 産業の消長を歴史的・実証的に分析することができる。 産業の将来動向を予測し、望ましい経済社会のための産業政策の企画に取り組むことができる。</p> <p>健全な企業活動が営まれるための知識を修得し、それを阻害する問題がある場合には、経営学的・会計学的能力を駆使して、これに対処できる。</p> <p>B-2 汎用的能力</p> <p>経済・経営学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につける。 複雑化し多様化する現代経済社会が直面する諸問題に的確に対処し、その解決策を見出す能力を養う。</p>

現代経済社会が抱える問題を歴史的・構造的視点から分析する能力、および、問題を発見し解決する能力を養う。

地域に根付く企業活動の国際的展開に対応しうる企画・創造力を養う。

C 態度・志向性 Valuing and Quality of Mind

世界的な視野と自立的な学習及び実践力を有し、高い専門性を備える。

国際的に活躍するとともに、自身が属するさまざまなコミュニティの発展に貢献できるポテンシャルを持つ。

アクティブ・ラーナーとしての自立的な学習と実践の能力を持つ。

経済工学科

A 知識・理解

数理・数量的手法を用いて、複雑で多様な経済諸問題を科学的に理解し説明することができる。

現実の経済システム、経済動向を把握・評価し、多方面からの政策分析を行うことができる。

経済・経営問題に関する数理・情報解析の手法を活用することができる。

B 技能

B-1 専門的能力

数量的な方法を用いて現実の経済の動きを照合することができる。

情報技術の活用や工学的な手法の導入といった幅広いアプローチを活用して、経済諸問題を把握・分析することができる。

政策的課題の解決に向けた創造的な思考法を基礎にして、現実経済への働きかけとしての政策が持つ意味を多面的に検討することができる。

B-2 汎用的能力

経済・経営分析のための数理・数量的手法の基礎と統計的・数学的基礎に関する知識、生きた経済に対する豊かな現実感覚と国際的視野を身につける。

複雑化し多様化する現代の経済社会に対する現実感覚に基づいて、解決すべき政策的課題を発見する能力と政策分析に向けた新たな構想力を獲得する。

大量の情報を管理し処理するための数学的な基礎知識と、コンピュータの基礎と応用の能力を身につける。

C 態度・志向性

世界的な視野と自立的な学習及び実践力を有し、幅広い教養と高い専門性を備える。

理系と文系といった既成の枠にとらわれない幅広い分野において、国際的に活躍するとともに、自身が属するさまざまなコミュニティの発展に貢献できるポテンシャルを持つ。

アクティブ・ラーナーとしての自立的な学習と実践の能力を持つ。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/gaiyou/curriculumpolicy/>)

(概要)

○経済・経営学科

経済・経営学科は、体系的に経済学・経営学を学ぶことができるカリキュラムを講義系科目として提供するとともに、1年から4年までのすべての学年に少人数の演習系科目を配置することによって、きめ細かな学習サポートも併せて行っている。

1年次においては、全員が基幹教育科目の経済学入門を履修して専門の基礎を学ぶとともに、基幹教育セミナーに参加することで大学での学び方に触れます。2年次では、経済学・経営学の基礎を学ぶ上で重要な科目群(ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、会計学、経営学、政治経済学等々)を、基本科目として体系的に履修します。また経済・経営学基本演習では、経済の専門に即した演習科目履修のための基礎固めを行います。2年次からは外国書講読の履修も可能となります。そして3年次から4年次にかけては全員が経済・経営学演習に参加しながら、各人の興味関心にもとづいて選択必修科目および自由選択科目の履修を進める。

○経済工学科

経済工学科では、理論と分析ツール、およびその応用を一体的に学び、経済を把握し問題を解決する能力の修得を目指すための体系的なカリキュラムを提供しています。また 2 年から 4 年までの各学年次に少人数のセミナー（演習）を配して、自立心を養うとともにきめ細かな学習支援を行っている。

1 年次においては、必修科目である経済学入門において、ミクロ経済学・マクロ経済学・国際経済学の基礎を学びます。2 年次においては、基本科目として理論、計量、数理・情報の 3 分野から 6~7 科目を履修しなければなりません。これらの履修を通じて、経済分析の数理・数量的手法を習得します。経済工学基本演習に参加し、3 年次以降の演習に無理なく進めるような学習の定着を促します。3~4 年次では、全員が経済工学演習に参加しながら、各自の興味と関心に基づいて選択必修科目と自由選択科目の履修を行い、現実経済の政策課題と数理・数量分析手法についての専門的知識を高める。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/gaiyou/admissionpolicy/>）

（概要）

○経済・経営学科

経済・経営学科では、その特色ある教育課程により、学生は自己の問題関心に応じた体系的な科目履修が可能です。その結果、現実感覚や問題解決能力、外国語能力に基礎付けられた国際性、さらには、幅広い教養を養うことができます。先端的科学技術の急速な発展や経済のグローバル化・市場経済化の進展などによって大きな変容を遂げつつある現代の経済社会に深い関心を持ち、経済学・経営学の基礎理論や幅広い教養を身につけ、さらに、豊かな国際感覚を磨くことを通じて、人類が直面している種々の問題に積極的に取り組んでいこうという気概をもった皆さんが、経済・経営学科に興味を持ち、入学されることを期待している。

そのために高校では、基礎的科目としての国語・数学・外国語の諸科目をしっかりと勉強するだけでなく、地歴・公民の諸科目をできるだけ満遍なく学習することが重要です。また理科の諸科目も経済発展と密接不可分な科学・技術を理解するために学習することが求められる。

○経済工学科

経済工学科では、最先端の内容を含む経済理論、数量、情報科学の方法を活用して分析を進め、これらの結果を評価し、社会、経済における政策や戦略に応用、実践できる人材の育成を目指しています。このため経済学の勉学の土台となる国語力、社会に関する一般的基礎知識、数学（微積分、確率・統計、行列などは大学で経済学を学ぶ際、特に重要ですが、受験のためには所定の数学を満遍なく学習する必要があります）をはじめとする数理的知識、また、現代社会に対する多様な関心、好奇心を持つ学生の受け入れを重視します。

学部等名 理学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.sci.kyushu-u.ac.jp/student/ap_gakubu.html)</p>
<p>(概要) 理学は、自然界に存在する真理を明らかにして、体系的に説明する普遍的法則を構築する学問である。本学部は、教育研究を通じて基礎から思考する能力を涵養し、専門的知識・技術および方法論を身に付けた、社会の広い分野において貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.sci.kyushu-u.ac.jp/student/dp/dp_gakubu.html)</p>
<p>(概要) 理学部では、4年間を一貫させたカリキュラムに基づき、研究の最前線で活躍する多くの研究者による教育により、高度な課題発見能力と問題解決能力をもち、独創的な思考のできる人材を育成するため、学問分野の特性に合わせ、知識・理解、技能（専門的能力、汎用的能力）及び態度・志向性の3つの観点により、学科ごとに卒業認定の方針を設定している。</p> <p>例 ○ 物理学科物理学コース A 知識・理解 古典力学の基本法則を理解し、典型的力学現象を説明できる。 電磁気学の基本法則を理解し、典型的電磁現象を説明できる。 量子力学の基本法則を理解し、微視的世界の典型的現象を説明できる。 熱統計力学の基本法則を理解し、巨視的世界の典型的現象を説明できる。 物理学の典型的現象に関する実験を行い、物理法則に基づいて実験結果を説明できる。</p> <p>B 技能 B-1 専門的能力 物理学の基礎的理解に必要な数学を身につけ、典型的問題を数理的に解析できる。 物理学の典型的現象を、計算機を用いて数値的に解析できる。 基本的な実験装置のしくみを理解し、正しく操作できる。 誤差解析を通して、定量的に実験結果を分析できる。 英文の物理学の教科書の内容を理解できる。</p> <p>B-2 汎用的能力 データに基づいて、自分の考えをまとめる能力を身につける。 与えられた課題を、基本に立ち返って的確に分析し、その問題点を論理的に整理できる能力を身につける。 情報や通信技術を活用する能力を身につける。 自分の意見を明確に述べる能力や相手との建設的な意見交換ができる能力を身につける。</p> <p>C 態度・志向性 問題に取り組む積極性や持続力を持つ。 物理学のみならず広く自然科学分野について興味を持つ。 自然科学を社会に還元する姿勢を持つ。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.sci.kyushu-u.ac.jp/student/cp_gakubu.html)</p>

(概要)

1年次においては、基幹教育科目を中心に、各学科の基礎学力を養うとともに、所属する学科の最先端の学問分野を概観する。第2年次には専門分野の基礎科目を必修科目として学習する。第3年次には基礎科目からの発展科目を学習し、同時に実験科目を学習することにより、理論と実験との関連性についての知識を涵養する。第4年次においては、最先端の学問分野を学習するとともに、特別研究により現在の最先端の問題について研究を実施する。

例

○物理学科 情報理学コース

1年次においては、基幹教育科目を中心に、物理・数学の基礎学力を養うとともに、最先端の現代物理学および情報理学を概観する。2年次においては、情報理学の入門的な科目の他、情報理学を深く学ぶために必要な数学として、代数、論理、統計、解析を学ぶ。これらの科目には、内容の理解を深めるための演習科目が設けられている。3年次においては、計算理論、アルゴリズム理論に関する科目と、種々の応用分野の基本的事項を涵養するための科目をバランスよく学ぶ。アルゴリズムの実装能力を修得するため、1年次から3年次の前後期を通して、プログラミングの演習科目が1つずつ配置されている。4年次においては、研究室に配属され、情報理学の最先端のテーマについて研究を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.sci.kyushu-u.ac.jp/student/ap_gakubu.html)

(概要)

○物理学科

物理学の学習に必要な基礎学力を持っていることが必要です。高等学校で数学及び物理を履修し、基本事項を充分理解していること、さらに講義を理解し、情報収集やレポート作成・発表が出来る国語力が必要です。高校英語の学力も将来様々な分野で活躍するために重要である。

また、物理学を学び、その内容を自分のものにしようとする意欲が大事です。単なる興味でなく、常に物事の背景にある法則を探求しようとする姿勢が求められます。読書を通じ知識を広げ、まず自分で考えること、さらに教員、先輩、友人に質問し、議論する積極的な行動が必要である。

○化学科

化学科では、将来、化学研究者、高度な化学の専門知識をもつ技術者に成長することを志す、意欲的な学生を選抜します。また、高度な化学知識や思考を生かせる職業に携わり、日本の中核的、かつ指導的役割を担うことを目指す学生を選抜する。それゆえ、十分な基礎学力を持つとともに、化学の勉学に熱意をもち、創造性豊かな学生を選抜します。現代の化学は、物理学、生物学、地学、数学など他の多くの学問に支えられ、かつ互いに影響を与えている。化学を学び、深く理解するためには、これら関連する学問領域を広く理解することも重要となる。大学の授業の堅固な基礎となる高等学校での幅広い学習を望みます。

○地球惑星科学科

地球惑星科学の学習に必要な基礎学力を持っていることが必要である。高校数学および高校理科の基本事項を理解し、大学での講義の理解、文献の読解、レポートの作成、研究発表などのための国語力が必要です。また高校英語の学力は、専門文献の読解に必要であり、将来、国際的な場で活躍するためにも必要である。

当学科は、地球惑星科学の高い専門的知識や考え方を活かして、研究者、技術者、教育者として日本ばかりではなく世界で活躍することをめざす入学者を選抜します。このために、十分な基礎学力だけでなく、地球惑星科学の勉学に対する熱意、自然現象への探求心をもった創造性豊かな入学者を選抜する。

○数学科

高校までの基礎学力が十分にそなわり、数学が好きである学生、あるいは自然科学、情報科学、社会科学の数理的側面に旺盛な好奇心をいだく学生を歓迎します。また、自らの興味や疑問をいただいた数学的問題にたいし、じっくりと取り組んで考えるねばり強さや、自分の考えを人(友人、先輩、先生など)との議論を通しさらに深めていこうとする姿勢を尊重する。

○生物学科

分子、細胞、個体、集団等のいろいろなレベルでの生命現象の仕組みを問題意識として明確にもつことができ、生物の勉学、研究に熱意をもつ創造性豊かな学生。特に自立した研究者をめざす意欲のあることを重視している。本学科志望者には、高校において理系科目(数学、理科〔生物のほか、化学、物理〕)を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、および自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目(国語、英語、社会)も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。「アドミッション・オフィス入試」、「帰国子女・私費外国人留学生入試(4月入学)」においては、生物学科に係る各種コンテストなどで活躍した実績も評価する。

○国際理学コース

自然や論理に対する強い興味を持つこと
それらを学び追求する意欲の高いこと
論理的思考の能力と創造力を持つこと
本学部の教育を受けるための基礎学力をもつこと
に加えて

数学、物理学、化学、生物学、地球惑星科学のいずれかに強い興味と学ぼうとする熱意をもつこと
自然科学のみならず、広く、人文科学、社会科学にも関心をもつこと
自然科学を研究・開発・教育の国際的な場で活かす強い意志を持つこと
高校英語の十分な基礎学力を持つこと
を入学を希望する学生に求めます。

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：http://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/admission/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>○医学科、生命科学科 本学部は、「人の健康と福祉の増進」という医学の使命を達成するための人材を組織的に養成する。</p> <p>○保健学科 九州大学医学部保健学科は、広い見識と深い人間理解を基盤とし、人の健康と幸せに貢献する人材を育成することを教育理念としています。このためには豊かな人間性の涵養に努めるとともに、社会の変化により生じる保健・医療・福祉への新たな要請にも応えうる知識と実践能力の涵養が重視されます。また、保健学分野の将来を担う高度な実践者、教育者、研究者へと発展する優れた医療人を育成します。この目的を実現するために、「豊かな人間性を備えた人材の育成」、「高度化する医療に対応できる人材の育成」、「全人的チーム医療に対応する人材の育成」、「高齢社会の医療に対応した人材の育成」、「多文化共生社会における国際医療の場で活躍できる人材の育成」、「医療の情報化に対応する人材の育成」、「教育者、研究者へと発展可能な人材の育成」などを目標にしています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：http://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/admission/policy.html)</p> <p>(公表方法：http://www.biomed.med.kyushu-u.ac.jp/admission/policy.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>○ 医学科</p> <p>A 知識・理解 生体の構造と機能の基本原則を説明できる。 個体の反応、病因と病態およびその診断と治療について説明できる。 広く生命現象の解明ならびに疾患の病因・病理・病態の解明に必要な研究について説明できる。</p> <p>B 専門的能力 生体の構造と機能およびその他の生命現象を解析し、その結果を解釈することができる。 個体の反応、病因と病態を解析し、その結果を解釈することができる。 収集された患者の医療情報を評価し、治療方針を立案できる。 患者の訴えを真摯に受け止め、相手の心情を思いやりつつ病状や治療法を正確に説明できる対話能力をもつ。 全身を総合的に診るための実践的能力をもつ。</p> <p>C 汎用的能力 日本語ならびに外国の医学生物学論文を読解し、その内容を他者に分かり易く説明するためにプレゼンテーションすることができる。 他者の医学生物学的プレゼンテーションを理解し、科学的討論をすることができる。 情報通信技術を活用して他者とコミュニケーションできる。</p> <p>D 態度・志向性 最新の医学生物学的知識、技術の習得に努める自主性と積極性を持つ。 患者の治療に当たり、幅広い職種の医療技術者と連携する協調性を持つ。 研究を通して医学生物学の発展に貢献しようとする意欲を持つ。 自らが持つ医学生物学的知識、技術を広く社会に還元する志向性を持つ。 身体的、社会的弱者の立場と心情を理解し、尊重する精神性を持つ。 異社会の制度、文化、精神性を理解し受け止めることができる包容性を持つ。</p> <p>○生命科学科</p> <p>A 知識・理解 生体の構造と機能の基本原則を説明できる。</p>

様々な疾病について恒常性維持の仕組みの破綻と関連づけて説明できる。
個体の反応、病因と病態について説明できる。
広く生命現象の解明ならびに疾患の病因・病理・病態の解明に必要な研究について説明できる。

B 専門的能力

生体の構造と機能およびその他の生命現象を解析し、その結果を解釈することができる。
個体の反応、病因と病態を解析し、その結果を解釈することができる。
生命医科学領域における研究課題を設定し、その解決のための実験等を自ら計画し、実行できる。

C 汎用的能力

日本語ならびに外国の医学生物学論文を読解し、その内容を他者に分かり易く説明するためにプレゼンテーションすることができる。
他者の医学生物学的プレゼンテーションを理解し、科学的討論をすることができる。
情報通信技術を活用して他者とコミュニケーションできる。
生命医科学領域の研究を進めるための様々な解析機器、ソフトウェアを正しく操作することができる。

D 態度・志向性

最新の医学生物学的知識、技術の習得に努める自主性と積極性を持つ。
研究を通して医学生物学の発展に貢献しようとする意欲を持つ
自らが持つ医学生物学的知識、技術を広く社会に還元する志向性を持つ。
自ら進んで課題を設定し、周囲と強調してその解決に取り組む積極性を持つ。

○保健学科

看護学

看護学専攻は、「統合基礎看護学講座」と「広域発達看護学講座」の2つ講座で構成される。

「統合基礎看護学講座」は、看護師教育課程を中心とした講座組織で、看護教育の基盤となる医学専門知識とともに小児期から老年期まで幅広い対象の発達段階にあわせた看護を教授している。また、看護実践に直結する看護技術・看護過程・看護倫理・看護管理・教育方法、各健康段階における対象者のライフスタイルの変容・セルフケアの確立・危機介入・生活の質の向上に向けた援助方法などについて教育・研究を行っている。

「広域生涯看護学講座」は、人が生まれる前から亡くなるまでの生涯を通じて、医療機関も含めた地域の様々な場で提供される看護ケア、個人・家族・地域集団に対する健康支援技術やシステム構築、女性のライフステージを通じた性、生殖に関わる看護学に関する教育・研究を行っている。また、選択コースとして保健師・助産師の育成も行っている。

放射線技術科学

放射線技術科学に必要な基礎理工学や基礎医学、コンピュータ技術を基盤にして、自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢、問題発見およびその解決能力を養う。医療人としての、感性豊かな人間性、倫理観、生命の尊厳、さらにチーム医療に必要なコミュニケーションの為に知識と技能、態度をまなぶ。カリキュラムは主に1～2年次に履修する医療系基礎教育科目、および2～3年次に履修する専門教育科目、さらに4年次に行われる臨地実習、および卒業研究から成っている。

検査技術科学

検査技術科学専攻では、九州大学医学部保健学科の教育理念に基づき、検査技術科学専攻の教育目的を踏まえた臨床検査技師教育を行う上で必要なカリキュラムを作成し、基礎科目、医療系基礎科目、医療系専門科目の講義、実習を行っている。

1年生では、基礎科目、教養科目を履修し、医系キャンパスで行われる医療系専門科目に備える。

2年生では、医療系基礎科目の講義、医療系専門科目の講義を履修し、臨床検査領域の知識を深めていく。
3年生では、医療系専門科目を中心に学習し、実際の臨床検査の実習を行い臨床検査技師としての能力と技術を身につけていく。
4年生では、大学病院の検査部での臨地実習を行い、臨床検査の最新技術を学ぶ。更に、専門領域の研究を卒業研究として行い論文にまとめる。
以上を通して、臨床検査技師としての専門知識と技術を身につけ、臨床検査技師の国家資格取得を目指す。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/admission/policy.html#purposes>)

(概要)

○医学科

・系統医学

医学・医療の長い歴史で培われ、多くの場面で必要となる最新の知識や技能、態度を必修制で学ぶ。

・総合医学

地域社会や国際社会、あるいは医学教育の変化に伴い、ある場面で特に必要となる知識や技能、態度を主に選択必修制で学ぶ。

・臨床実習

大学病院あるいは地域や海外の医療機関で、患者や医療スタッフとのコミュニケーションを通じて、医師としてのプロフェッショナリズムを実践的に学ぶ。

・社会医学

医学医療における倫理学や法学をはじめとする人文社会科学系の側面、さらに統計学や情報学などの理工学系の側面を学ぶ。

・国際医学

将来、外国人患者の診療や海外で臨床・医学研究に携わる動機づけのために、海外における医学・医療について学ぶ。

・MD - PhD コース

4年生修了時に、医学系学府医学専攻博士課程に『飛び級』し、早期に本格的な基礎医学研究を始めることができる。

○生命科学科

・系統生命科学Ⅰ・Ⅱ

医学科学生との合同授業で、からだの仕組み、病気を引き起こす原因や薬とからだの反応について医学知識を修得するとともに、基本的な実験操作を修得する。

・国際生命科学

早期研究室体験実習の研究成果を基に英文論文を作成し、ポスターを用いた英語での口頭発表により、情報を簡潔明快に伝えられる能力を上達させる。

・系統生命科学Ⅲ

分子生物学や細胞生物学の研究に必要な方法論の基盤と応用例を学ぶ。また、再生医療や遺伝子細胞療法の実際について学ぶ。

ウイルス学、創薬科学、神経病理学に関して最先端の知見をより深く学ぶ。生体が外界からの刺激を受容し、細胞内核内に伝えることで、刺激に対し臨機応変に応答しながらその機能を維持することを学ぶ。

希望する研究室に在籍し、教員の個別指導のもとに研究に取り組み、成果をまとめて卒業論文を作成することで、研究に必要な基礎的能力を身につける。

○保健学科

・看護学

看護学専攻は、「統合基礎看護学講座」と「広域発達看護学講座」の2つ講座で構成さ

れる。「統合基礎看護学講座」は、看護師教育課程を中心とした講座組織で、看護教育の基盤となる医学専門知識とともに小児期から老年期まで幅広い対象の発達段階にあわせた看護を教授している。また、看護実践に直結する看護技術・看護過程・看護倫理・看護管理・教育方法、各健康段階における対象者のライフスタイルの変容・セルフケアの確立・危機介入・生活の質の向上に向けた援助方法などについて教育・研究を行っている。

「広域生涯看護学講座」は、人が生まれる前から亡くなるまでの生涯を通じて、医療機関も含めた地域の様々な場で提供される看護ケア、個人・家族・地域集団に対する健康支援技術やシステム構築、女性のライフステージを通じた性、生殖に関わる看護学に関する教育・研究を行っている。また、選択コースとして保健師・助産師の育成も行っている。

・放射線技術科学

放射線技術科学に必要な基礎理工学や基礎医学、コンピュータ技術を基盤にして、自己の知識や技術の向上を目指す研究的姿勢、問題発見およびその解決能力を養う。医療人としての、感性豊かな人間性、倫理観、生命の尊厳、さらにチーム医療に必要なコミュニケーションの為に知識と技能、態度をまなぶ。カリキュラムは主に1～2年次に履修する医療系基礎教育科目、および2～3年次に履修する専門教育科目、さらに4年次に行われる臨地実習、および卒業研究から成っている。

・検査技術科学

検査技術科学専攻では、九州大学医学部保健学科の教育理念に基づき、検査技術科学専攻の教育目的を踏まえた臨床検査技師教育を行う上で必要なカリキュラムを作成し、基礎科目、医療系基礎科目、医療系専門科目の講義、実習を行っている。

1年生では、基礎科目、教養科目を履修し、医系キャンパスで行われる医療系専門科目に備える。

2年生では、医療系基礎科目の講義、医療系専門科目の講義を履修し、臨床検査領域の知識を深めていく。

3年生では、医療系専門科目を中心に学習し、実際の臨床検査の実習を行い臨床検査技師としての能力と技術を身につけていく。

4年生では、大学病院の検査部での臨地実習を行い、臨床検査の最新技術を学ぶ。更に、専門領域の研究を卒業研究として行い論文にまとめる。

以上を通して、臨床検査技師としての専門知識と技術を身につけ、臨床検査技師の国家資格取得を目指す。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.mdc.med.kyushu-u.ac.jp/admission/policy.html#purposes>)

(概要)

○医学科

医師の仕事は、非常に幅広く、基礎の研究者から臨床医まで選択肢も多い中で、最も大切なことは弱い立場の患者さんの味方となり、病気に苦しんでいる患者さんを助けることです。単に受験学力が高いから医学部に入学するのではなく、医師としてあるいは医科学分野の研究者として活躍するに十分な能力と素質をもち、明確な目的意識をもった学生を望んでいる。

人間で最も大切なことは、「生きがいを持ち人間らしく生きること」です。命に直接関係するような病気を持っている患者さんは、ややもすると、この「生きがい」をなくし、生きる喜び、生きる目標を失っています。このような人達に優しい救いの手をさしのべることができる人間味あふれる学生を求めます。

○生命科学科

人を含む様々な生物の生命現象に興味を持ち、生命医科学関連領域の勉学と研究に情熱をもって臨む志の高い学生を求めます。本学科では将来の生命医科学研究と医学教育を担う多数の人材を輩出するため、基礎的講義を土台に最先端の生命医科学研究を行うまでの教育プログラムを準備しています。このような講義ならびに研究内容を理解するには、高校において理系科目（数学、理科〔生物、化学、物理〕）の履修を通じ、自然科学の基礎知識を習得するとともに、文系科目（国語、英語、社会）も幅広く履修することが望まれます。また、論理的に思考し、同時に論理的な説明を行う能力ならびに論理的な文章を書く能力を備えていることが望まれる。

○保健学科

保健学科での学修をめざす学生には次のことが期待される。

- ・病む人々や健康を願う人々の心を理解し、保健・医療・福祉の分野で活躍する意欲と強い意志があること。
 - ・自ら医療における諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性があること。
 - ・医系だけでなく、広い分野の学習を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探究の能力を高めることによって、自らの能力を最大限に発揮していこうとする意欲があること。
 - ・様々な分野を学びたいという積極的な意欲があること。
 - ・学問を深く学ぶために、必要な基礎的な能力を身につける努力をいとわず、積極的に学習を進めることができる意欲や能力があること。
 - ・海外での医療活動ができるための相当の語学力を身につけることに意欲があること。
- このような意欲と自主性と一定の能力が何よりも強く望まれる。

学部等名 歯学部
教育研究上の目的 (公表方法： http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/pdf/policy/undergraduateAPDP/CP.pdf)
(概要) 九州大学歯学部は高度職能人としての歯科医師を養成し、歯科医療や歯学の教育・研究におけるリーダーとして国内外で活躍できる優れた人材を育成することを教育理念とする。歯学部における教育は、高い倫理観、豊かな人間性、ならびに高い国際性を有する高度な専門知識と臨床能力を備えた歯科医師あるいは歯学研究者を養成し、口腔の機能改善と構築に幅広く貢献し、「口腔から全身の健康に貢献する」ことを実践することができ、国際的にも活躍できる指導的人材を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/pdf/policy/undergraduateAPDP/CP.pdf)
(概要) 九州大学歯学部は、九州大学教育憲章に基づいて策定されたカリキュラムに則り歯科医師・歯学研究者となるために必要な学習目標を達成し、別に示した求められる資質をすべて有する者に歯学士の学位を授与する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> ① 人体、特に顎顔面口腔領域の構造、機能および機能制御機構を巨視的構造レベルから遺伝子・分子レベルまで階層的・統合的に理解し、説明する。 ② 人体、特に顎顔面口腔領域の発生、成長発達ならびに加齢変化を巨視的構造レベルから遺伝子・分子レベルまで階層的・統合的に理解し、説明する。 ③ 人体ならびに顎顔面口腔領域に発生する感染症、疾患、形態・機能異常ならびにこれらに伴う障害をあらゆる生物学的側面から説明する。 ④ 歯科医療および歯科医学研究を実施するための法的根拠、規律、規範、患者の権利、歯科医師の義務について説明する。 ⑤ 顎顔面口腔領域に発生する疾患、形態・機能異常ならびにこれらに伴う障害の診断、治療に必要な検査法、診断法、治療法ならびに治療材料について説明する。 ⑥ 各種検査、治療あるいは治療に用いられる薬剤、材料に対する生体の反応を理解し、それらの効果と為害作用、ならびにリスクを説明する。 ⑦ 顎口腔領域の診療を行う上で知っていることが必要な全身疾患や、感染症などの症状等について理解し、歯科医療上の対応について説明する。 2. 技能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門的能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者の話に傾聴し、患者の訴えを共感的に理解する技能を身につける。 ② 顎顔面口腔に発生する様々な疾患、形態・機能異常、ならびにこれらに伴う障害について、適切な検査法を選択して問題点を抽出し、診断する能力を身につける。 ③ 顎顔面口腔の疾患、形態・機能異常、ならびにこれらに伴う障害に対して、患者の持つ社会的、個人的背景をも考慮しながら治療計画を立案する技能を身につける。 ④ 歯科医学研究、歯科診療に用いられる各種薬剤、器材・器具、機器等を正しく取り扱う技能を身につける。 ⑤ 一般歯科医として必要な基本的診療技能を身につける。 ⑥ 各種卒業専門教育プログラムにおいて、各種専門的歯科診療を学ぶための基本的技能を身につける。 2) 汎用的能力 <ol style="list-style-type: none"> ① 知識を統合的に把握する能力を身につける。 ② 診療に必要な情報を的確に患者から導出し、それを分析し、最良の診療に向けての的確な行動を取る能力を身につける。

- ③ 表現能力とコミュニケーション能力を鍛え、広く世界と交流する視点を養う。
- ④ 最新の科学情報、歯科医学情報、歯科医療行政関連情報を的確に収集する技能を身につける。
- ⑤ 一般に分かりやすく、専門的知識、技術等を説明する表現能力を身につける。
- ⑥ 金属や樹脂などの微細加工技術を身につける。
- ⑦ 英語を用いたコミュニケーション能力を身につける。

3. 態度、指向性

- ① 医療チーム・歯科医療チームの歯科医師としてチーム医療を支え、患者の QOL 向上に貢献する。
- ② 患者の訴えを共感的に傾聴し、患者に分かりやすい説明により、適切な informed decision を形成する歯科医療を実践する。
- ③ 歯科医学のみならず、ひろく人文科学、社会科学ならびに自然科学についても興味を持ち、歯科医療の発展に貢献する。
- ④ 医療人として節度を保ち、自己犠牲と奉仕の精神を備える。
- ⑤ 常に最新の歯科医療技術および知識を探索し、批判的に吟味し、新たな専門的知識・技術を身につけ、可能な限りエビデンスに基づいた歯科医療を生涯にわたり実践する。
- ⑥ 歯科医学研究チームの一員として、自身の知識・技能を活用し、歯科医学の発展に貢献する。
- ⑦ 自らの診療能力を客観的に評価し、患者が適切な医療・歯科医療を受けることができるように適切な情報提供を行う。
- ⑧ 歯科医療・医療を巡る社会経済的動向を把握し、地域の保健・利用・福祉・介護および行政と連携協力し、地域医療の向上に貢献する。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

<http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/pdf/policy/undergraduateAPDPCP.pdf>)

(概要)

歯学部では、歯科医療および歯学に関連する幅広い知識を身につけるために、歯科基礎医学、臨床歯学のみならず、医療系統合教育や医学教育も含め、各専門分野における徹底した集団指導により、以下に掲げる歯科医師・歯学研究者に求められる資質を涵養することを目指す。また、能動学習を主体とした自律的学習態度を身につけて生涯研修の能力的基盤とし、専門科目で身につけた知識や技能を統合するための総合科目を設定して多様な教育方略を採用するとともに、形成的評価により自分の学習到達度を確認しながら学修を進めることのできる体系的なカリキュラムを提供する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

<http://www.dent.kyushu-u.ac.jp/pdf/policy/undergraduateAPDPCP.pdf>)

(概要)

九州大学歯学部では、学力に優れていることに加え、九州大学教育憲章に基づき、秀でた人間性、社会性、国際性を有し、医療福祉の観点から奉仕精神や利他主義に基づく高い倫理観を有し、自律的な学究を指向する人材を求めている。そのため、入学試験では多様な価値観をもった幅広い人材が選抜できるよう、学力を主たる判断基準とした一般入試（前期日程）に加え、優れた学力と共に歯科医療に対する使命感、探求心、創造性、論理的思考力、生命体への関心と深い愛情などの資質をも選抜評価基準に採用した総合評価方式による特別の選抜（アドミッション・オフィス入試、略称AO入試）及び一般入試（後期日程）を実施する。

学部等名 薬学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/sougou/mokuhyo.php)</p>
<p>(概要)</p> <p>創薬科学科 人々の健康を維持するためには、癌をはじめとする難病や新種のウイルスなどの新興疾患に対する治療薬や予防薬の開発が必要である。このためには、生命のメカニズムの解明や障害因子の特定、並びにそれらの情報を基に副作用の少ない標的に特異的に働く理想的な医薬品の開発が欠かせない。薬を創る、いわゆる創薬産業は我が国で発展が期待される次世代産業の一つと捉えられており、これを育成・発展させることが望まれている。薬学部創薬科学科は、創薬研究に関連する教育を強化し進めることで、最先端の創薬研究に対応できる高い能力を持った、国際的に活躍できる研究者や指導者を養成する。</p> <p>臨床薬学科 近年、医療の高度化、複雑化、高齢社会の到来、医薬分業の進展など薬剤師を取り巻く環境が大きく変化している。このような状況下で、薬剤師は最適な薬物療法の提供、服薬指導、医療への安全対策など、幅広い分野で役割を果たすことがより強く求められるようになっている。 薬学部臨床薬学科は、薬剤師としての基礎知識、技能や高い倫理観、医療従事者としての教養、医療現場で通用する実践力などを持つ医療薬学の将来を担う人材の育成を目的とする。 本学部臨床薬学科で育成する薬剤師とは「研究者マインドを持つ薬剤師」を意味しており、研究を通して課題を探究する能力と問題を解決する能力を育成するカリキュラムを設置していることを特徴とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/sougou/pdf/drug_discovery_and_evolution.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>創薬科学科 1. 学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】 本学部（創薬科学科）において学んだ学生は、卒業（学位の授与）に際して、以下の目標に到達することが期待される。</p> <p> 1 知識・理解 ○ 化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学及び医療系薬学を基盤とした幅広い知識を理解し、論理的に思考できる。 ○ 医薬品の研究開発を推進するための基礎知識を理解している。 ○ 医薬品研究に関する内容を専門でない人にも説明できる。</p> <p> 2 専門的な技能 ○ 科学的な思考力に基づいて研究を遂行するのみならず、問題を解決する基礎的な能力を持っている。 ○ 研究の様々な課題を解決できるとともに、広く展開できる基礎的な能力を持っている。 ○ 医薬品の研究開発を推進するための基礎的な技能を修得している。 ○ 創薬研究者あるいは教育者としての基本的な素養を修得している。</p> <p> 3 汎用的な技能 ○ 社会の要望に応える研究を実施するための課題の設定および解決に必要な基礎能力を持っている。 ○ 専門分野以外の異なった研究分野の理論、技術、発想を取り入れた実験を展開できる。 ○ プレゼンテーションおよび討論の基礎的な能力を持っている。</p>

- 国際的に活躍できる基礎的な能力を持っている。
- | 4 | 態度・志向性
- 主体的に研究を遂行できる基礎的な研究能力を持っている。
- 医薬品開発研究者としての深い感性や高い倫理観を持っている。
- 共同研究に参画できる基礎的な技能や態度を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：

http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/sougou/pdf/drug_discovery_and_evolution.pdf)

(概要)

学生が上記の目標（ディプロマ・ポリシー）に到達するため、以下のようなカリキュラムを編成する。本学部（創薬科学科）の教育課程の特色は、人体や病気に関する化学や生物などの基礎科目を人体・病気・薬と関連付けて学ぶことである。

【カリキュラムの基本構造】

- 4年の教育課程のうち3年間を基礎としての教育を行い、最後の1年間は応用的能力を養うために卒業研究（特別実習）を行う。
- 3年間の基礎教育課程の教育では、創薬科学や生命科学などに対応できる基礎的な能力を獲得するため、これらの領域をカバーする化学系、物理系、生物系、環境系および医療系の講義を受講する。
- 4年次に行う卒業研究（特別実習）では、研究室に所属して、経験豊富な教員の指導の下で、個別に最先端研究に取り組み問題を解決する能力の向上を図る。
- 専門的な科目のみならず、人文科学についての講義も幅広く受けることができる。
- 国際的に活躍する能力を養うために、異文化や言語文化に関する教養教育を行うと共に、英語による成果発表のための演習を実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：

http://www.phar.kyushu-u.ac.jp/sougou/pdf/drug_discovery_and_evolution.pdf)

(概要)

- 薬を創るという強い意志を持つ学生の入学を期待する。
- 高等学校卒業レベルの十分な基礎学力を持つとともに、理科学科目（化学、生物および物理）に対して興味や関心を持つ学生の入学を期待する。
- 国際的に活躍できる人材の養成を目指しているため、十分な英語の基礎学力を持っている学生の入学を期待する。

学部等名 工学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/u_philosophy.html)</p>
<p>(概要) 工学は、物理学や化学などの基礎科学分野における原理と法則をもとに人類文明の持続的発展を恒久的に探究する学問です。本学部は、エネルギー・資源・物質・環境・システムに関する専門基礎知識と様々な事象に対する理解力と説明能力を教授育成するとともに、幅広い教養と視野をもって工学に携わる技術者・研究者を組織的に養成します。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/u_philosophy.html)</p>
<p>(概要) 工学は、物理学や化学などの基礎科学分野における原理と法則をもとに人類文明の持続的発展を恒久的に探究する学問であります。工学部においては、エネルギー・資源・物質・環境・システムに関する工学の基礎知識と様々な事象に対する理解力と説明能力に加えて、幅広い教養と倫理観及び国際的視野を併せ持ち、「人類文明の持続的発展」を究極の基本理念としながら、工業・科学技術を先導し、産業・研究・教育・行政などの分野で社会に貢献できる技術者・研究者などの人材育成を目的としています。</p> <p>そのため本学部の教育カリキュラムの実践に当たっては、工学と科学技術の将来展開と社会のニーズを意識しつつ、即時的にそれらの要請に対応できるカリキュラムを検討する組織を設け、常に、最新かつ最先端なものとなるように配慮しています。</p> <p>学位プログラムごとに、教育の目的および到達目標を設定しています。 到達目標は、知識・理解、技能（専門的能力、汎用的能力）及び態度・志向性の3つの観点で、学位プログラムごとに設定しています。</p> <p>(例) 学位プログラム：航空宇宙工学</p> <p>○教育の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航空宇宙工学の基本的学識を学修させること。 ・航空宇宙工学の基本的学識を総合して、統一的に機能するものにまとめ上げるために必要なシステム・インテグレーション能力を涵養させること。 ・航空宇宙工学に特徴的な論理的思考を通して、問題発見・問題解決能力を身に付けさせること。 ・プロジェクト遂行に必要な能力を涵養させること。 ・工学が社会の役に立つために能動的に行動できる能力を発達させること。 ・専門職にふさわしい、多様な職業背景に適用可能な能力を有する人材を育成すること。 ・技術者・研究者に必要な一定の教養と倫理観を身に付けさせること。 <p>○到達目標</p> <p>A 知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応用力学に必要な数学の学識を修得する。 ・応用力学に必要な情報科学の基礎的学識を修得する。 ・力学と材料力学、流体力学、熱力学などの応用力学の学識を修得し、航空機・宇宙機に関連する基礎物理現象を説明できる。 ・制御工学、航空宇宙機運動学などの学識を修得し、航空機・宇宙機固有のダイナミクスを説明できる。 ・航空機・宇宙機に特有の極限的な現象を理解し説明できる。

- ・航空機・宇宙機の設計開発に必要となる設計製図や工業材料の基礎的学識を修得する。
- ・計測の原理および手段など航空宇宙工学に関わる実験科学の基礎的学識を修得する。

B 技能

B-1 専門的能力

- ・航空宇宙工学に関わる応用力学問題を適切にモデル化し、解析的または数値的に処理できる。
- ・航空宇宙工学に関わる基礎的な実験器具・装置を操作することができる。
- ・実験や計算の結果を分析し、正しく自分の考察をプレゼンテーションできる。
- ・航空宇宙工学の論理的思考能力を基盤に航空機・宇宙機の研究・開発へ活用できる。
- ・総合工学・システム工学の学修を通して、システムを適正に機能させるために複数のシステム要素を統合する能力を身に付ける。

B-2 汎用的能力

- ・知識を統合的に把握する能力を身に付ける。
- ・工学の基礎となる物理学などの自然科学の方法と論理的思考力を身に付ける。
- ・航空宇宙工学の専門分野の内容の深い理解と、学問固有の思考を獲得する。
- ・情報科学の基礎を活用する能力を身に付ける。
- ・表現能力（自分の意見を明瞭に述べる能力）とコミュニケーション能力（討論能力、他分野を理解する能力、語学）を鍛え、広く世界と交流する視点を養う。
- ・科学と社会のかかわりの問題を専門分野の学習を通して理解する能力を身に付ける。
- ・問題の本質を見抜き、問題の中身を良く吟味し、それを解決するための方法を提示し、実行する問題発見・問題解決能力を身に付ける。
- ・要素のみでなく全体を判断できるシステムエンジニアリングの手法を取得する。
- ・設計開発に必要な基礎的学識を活用する能力を身に付ける。
- ・人文・社会科学等の基礎知識を身に付ける。

C 態度・志向性

- ・航空機・宇宙機の運用領域拡大によって生ずる未開拓の技術課題や学問領域に積極的に挑む意欲を持つ。
- ・周りとの協力を進めながら問題解決へ努力する協調性を備える。
- ・問題解決にあたり様々なアプローチの可能性を考える。
- ・航空宇宙工学の発展へ自ら寄与しようとする意欲を持つ。
- ・航空宇宙工学のみならず広く自然科学分野についても興味を持つ。
- ・最先端分野の研究・技術開発に必須の国際性を向上させることに強い意欲を持つ。
- ・技術者が社会に対して負う責任を自覚し、倫理観を身に付ける。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/u_philosophy.html）

（概要）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、学位プログラムごとに教育課程、教育内容・方法を定めている。

（例）

○ 建築学科

建築学は、建築文化を歴史的に顧みながら人間の多様な生活に密着した空間を作り出す学問分野であり、本学科は、建築の計画理論と設計方法、環境技術、構造技術そして材料と施工技術など、多様な要素を総合する能力と芸術的感覚を有する人材の育成を目的としています。

工学的技術や建築文化についての幅広い知識と技術を修得して、卒業後に建築士などの資格の取得や、国際社会の第一線で活躍する建築家、建築技術者および研究者を養成する

ために、本学科の教育カリキュラムは、建築学に関わる諸知識を体系的・理論的に学ぶための講義科目、具体的なデザイン手法を習得するための設計演習科目、そして専門的知識を体得するための演習・実験科目などをバランス良く配置しています。このカリキュラムを実践するために、本学科の講義科目は、専門的知識を習得するために教員が主にひとりで解説する講義と多角的な理解を深めることを目的に複数の教員によるオムニバス講義とで構成されています。さらに設計テーマごとに複数の教員によるスタジオ形式の演習指導を通してデザイン能力とともにコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を養うための設計演習科目と、実験実習やフィールドワークを通して知識や技術の応用能力を養う演習・実験科目を用意しています。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.eng.kyushu-u.ac.jp/u_philosophy.html)

(概要)

工学は、物理学や化学などの基礎科学分野における原理と法則をもとに人類文明の持続的発展を恒久的に探究する学問であります。工学部においては、エネルギー・資源・物質・環境・システムに関する工学の基礎知識と様々な事象に対する理解力と説明能力に加えて、幅広い教養と倫理観及び国際的視野を併せ持ち、「人類文明の持続的発展」を究極の基本理念としながら、工業・科学技術を先導し、産業・研究・教育・行政などの分野で社会に貢献できる技術者・研究者などの人材育成を目的としています。

そのため本学部では、国内のみならずグローバルな視点から工学・科学技術の様々な分野で、究極の基本理念とする「人類文明の持続的発展」に貢献したいという強い意欲と適性を持った学生を受け入れます。

学部等名 芸術工学部
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法 : https://www.design.kyushu-u.ac.jp/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>芸術工学部は、技術を人間生活に適切に利用するために、技術の基礎である科学と人間精神の最も自由な発現である芸術とを総合し、技術の進路を計画し、その機能の設計について研究するとともに、人文、社会、自然にまたがる知識と芸術的感性を基盤とする設計家を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針</p> <p>(公表方法 : https://www.design.kyushu-u.ac.jp/policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>【2020 年度以降入学者】</p> <p>○ 芸術工学科</p> <p>本学部は、九州大学教育憲章に定める教育の目的と 4 つの原則（人間性の原則、社会性の原則、国際性の原則、専門性の原則）及び本学部における教育上の目的を踏まえて、次に掲げる「芸術工学」の基本・基礎を十分に理解し、社会的な要請に応える創造性あふれる高度デザイン人材を育成する。さらに各コースで掲げる到達目標を達成した学生に対して、学士（芸術工学）の学位を授与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術工学に関連する様々な専門知識を総合的に活用しながら社会の課題を発見・提起する能力。 ・広い視野に立って他者と協力しながら課題の解決に向けて取り組む能力。 ・課題の解決のためのプロセスを明確にし、企画・実践する能力。 ・自らの感性や専門的知識を有効に活用しつつ、考えを効果的に表現・伝達する能力。 <p>【2019 年度以前入学者】</p> <p>○ 環境設計学科</p> <p>環境設計とは人間と環境の共生という理念にたつて、両者の関係のありかたを考察し、具体的な提案をすることです。環境設計学科では、エコロジー、持続可能性、資源、文化遺産、グローバル化、地域再生、景観といった近年の懸案に応えるため、芸術工学の基本理念にたつて、技術、人間、社会、自然に関する多角的な知識を集結して考察し、芸術的センスあふれる建築、都市、緑地、ランドスケープなどをデザインできる創造的な設計家を、国内外の設計家資格に適合し国際的にも通用する枠組みのなかで組織的に育成することを教育の目的としています。</p> <p>この目的を達成する環境設計学科の教育目標は、環境設計分野に必要な ①基礎的能力を高め、②4 つの想像力を培い、③実践的な解決能力を提示する能力を有する人材を育成することです。</p> <p>○ 工業設計学科</p> <p>工業設計学科は、理想的な製品や生活環境を計画・設計する学科です。科学、工学、感性の観点から、「モノ」「コト」「空間」のデザインにアプローチすることにより望ましい生活、社会の構築に貢献できる、エンジニアやプランナーなども含む広義のデザイナー、研究者の育成を目標としています。</p> <p>上記の教育目標の達成に向けて、工業設計学科では、次の 3 つの分野を総合的に習得します。</p> <p>人間工学分野における科学的アプローチにより、安全で快適な生活環境や製品を創造するために、人間の形態的、生理的、心理的、行動的特性についての知識を身につけ、それらに関する科学的な研究方法を習得します。</p> <p>知的機能工学分野における工学的アプローチにより、高度な機能を実現するために、力学や制御などの基礎学問、測定理論、データ処理技術と解析に必要な基礎数理及びそれら</p>

を支援するコンピュータ利用技術を習得します。

インダストリアルデザイン分野における感性的アプローチにより、デザイン理論を踏まえ、生活空間や生活機器をデザインするための調査・分析手法、デザインのプロセスと表現方法を習得します。

○ 画像設計学科

本学科の教育課程を修了した学生が、視覚情報を主体的に処理し得る能力を備えた創造性の高い画像設計の専門家であると評価されるような教育の実施を目指しています。

教育の効果として、本学科が提供する教育課程を修めた卒業生は、

- ① 広報、広告、宣伝等の企画・調査・製作
- ② 印刷媒体の企画・編集・レイアウト、サインシステムの研究開発
- ③ 多様な視覚媒体による芸術活動及びその応用展開
- ④ 流通及び市場活動における展示計画
- ⑤ 視聴覚教育など情報産業における視覚伝達法の開発計画
- ⑥ 画像（映像・印刷・医用・工業用その他）の電子的情報処理方式のハードウェア・ソフトウェアの研究設計開発
- ⑦ 画像通信ネットワークシステムの研究開発
- ⑧ 光学的情報表示システムの研究開発

などの幅広い分野で活躍できることが期待されており、そのような教育を提供することを目指しています。

○ 音響設計学科

本学科では、人間、社会において広い視野を有し、音に対する芸術的感性と音響設計学に関する専門的知識を兼ね備え、総合的な設計能力を有する音響設計の専門家を養成するという教育目的を掲げています。そのために社会で求められている指導的役割を果たすにふさわしい教養と音響に関する基本的知識を、共に兼ね備えた人材の育成を目指し、音文化学、音響環境学、音響情報学の三つの分野の教育カリキュラムが用意されています。また、三つの分野は、言語、音楽、音デザイン、物理音響、音環境、音響情報処理、聴覚の七つの領域で構成されています。

○ 芸術情報設計学科

本学科の教育課程を修了した学生は、次のような能力を備えていると評価されることを目指しています。

- ① 芸術・文化を理解し、時代の要求を的確に企画・演出する基本的な能力
- ② 創造性に富み、人間性豊かなメディア環境を設計・計画する基本的な能力
- ③ 高度情報通信社会に応用できる数理工学分野の基本的な能力

卒業生は、次のような幅広い分野で活躍することが期待されており、すでに実績を上げています。

- ① 高度情報通信機能を備えた社会システムや生活システムの総合デザイン
- ② 演劇、音楽、スポーツなどイベントの企画・演出
- ③ 通信事業におけるマルチメディア・コミュニケーションデザイン
- ④ コンピュータ、情報家電メーカーのインタフェースデザイン
- ⑤ マスメディア、インターネット、電子出版、官公庁等における企画・演出
- ⑥ 博物館、美術館、文化会館等の企画・展示

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/about/info>)

(概要)

【2020年度以降入学者】

○ 芸術工学科

本学部のカリキュラムは大きく分けて、全学共通の基幹教育と学部独自の専攻教育からなる。

全学共通の基幹教育では、新たな知や技能を創出し、未知の問題を解決していく上での

幹となる「ものの見方・考え方・学び方」を学び、生涯にわたって自律的に学び続けるアクティブ・ラーナーの育成を目指し、初年次－学部－大学院－社会へと続く学びの成長を支持する幹を作る体系的なカリキュラムとして機能する。

2年次からの学部専攻教育では、基幹教育で掲げる目的と目標を踏まえながら、芸術工学の学問的アイデンティティを強化しつつ、50年間芸術工学が培ってきた専門性を活かして、学生に基盤となる設計の知識や技能を身に付けさせるように、以下の方針で高度デザイン人材に必要な創造性を育むデザイン教育を構築する。

- ・多様化・複雑化している今日の社会課題を発見・提起できるように、芸術工学に関連する様々な専門知識を修得させる。
- ・広い視野に立って複数の専門分野の人々と協力しながら課題解決へ向かうための知識や技能を修得させる。
- ・新たな価値の創出や課題解決に向かうプロセスを明確化し、企画・実践するための知識や技能を修得させる。
- ・自らの感性や専門的知識を活用しながら、考え方を効果的に表現・伝達するための知識や技能を修得させる。

これらに加えて、各コースで掲げる目標に沿った高度デザイン人材を育成するため、以下のような教育課程を編成し、実施する。

【2019年度以前入学者】

○ 環境設計学科

環境とは学際的な対象であり、ここでは建築、都市、自然、造園という、通常は異分野とされているものを総合的かつ実践的に教育を行う。多くの領域を統合的に学べるようフィールドワーク（野外調査など）やアトリエ（設計の演習）を重視し、環境設計学を構成する3分野をまんべんなく修得する。環境論分野では、設計家としてはっきりした哲学を持つために、環境を評価し論じるために根本となる、自然や人間や社会に関する学問を学ぶ。環境計画設計分野では、創造的な設計能力を体得するために、地域、都市、建築、自然、歴史的遺産といった具体的な環境の中で、実際に何をどう設計するかを学ぶ。環境システム分野では、持続可能な環境を設計するための根幹となるツールを修得するため、技術と社会のシステムを学ぶ。

○ 工業設計学科

次の3つの分野を総合的に学び、それらを統合するプロジェクトや演習科目を履修することにより、社会の複合的な課題を解決する能力を身につける。

〈人間工学分野〉人間を知る：科学的アプローチ

安全で快適な生活環境や製品を創造するために、人間の形態的、生理的、心理的、行動的特性についての知識を身につけ、それらに関する科学的な研究方法を学ぶ。

〈知的機能工学分野〉モノを知る：工学的アプローチ

高度な機能を実現するために、力学や制御などの基礎学問、測定理論、データ処理技術と解析に必要な基礎数理及びそれらを支援するコンピュータ利用技術を学ぶ。

〈インダストリアルデザイン分野〉美しさを知る：感性的アプローチ

デザイン理論を踏まえ、生活空間や生活機器をデザインするための調査・分析手法、デザインのプロセスと表現方法を学ぶ。

○ 画像設計学科

画像設計学科では以下に示す視覚学、視覚芸術学、画像工学の3分野の有機的な編成と体系的・専門的な教育により、視覚情報を総合的に設計する力のある人材を育成します。

1. 視覚学における視覚の神経機構や感覚知覚から心理、美学美術史などの基礎理論や基礎科学

2. 視覚芸術学のデジタルデザインやサイン計画、広告・宣伝、映像表現、美術表現などの分野

3. 画像工学の光電子工学や画像情報解析・処理、画像・映像情報システムなど、近年急速に発展している分野

基礎的な専門の講義を初年度から開始し、次第に演習・実習・実験の科目も取り入れることによって、実践的で総合的な教育課程となるようにプログラムされています。

○ 音響設計学科

音文化学、音響環境学、音響情報学の三つの分野の教育カリキュラムがある。

音文化学では、音声言語の体系的理解を深め、また音楽の表現方法や歴史的・理論的理解を深め、さらに音楽学、作曲等に関わる領域の理解を深めることによって、音を介して人間の精神活動の成果を生み出す音声言語文化、音楽文化に関する教育研究を行う。

音響環境学では、人間を取り巻く音環境に関して、人間的側面から評価することと、物理的側面から解析・予測・計測・制御することについて学び、人間にとって最適な音環境を構成するために必要な教育研究を行う。

音響情報学では、聴覚情報を獲得し、体制化する知覚・認知の仕組み、音響情報の抽出・処理・記録・伝達を含む音響機器の最適化、および楽器音響に関する教育研究を行う。

これら三つの分野に対する横断的な教育として、音響実験、輪講、卒業研究を行い、音響設計の専門家としての総合的な能力を養う。

○ 芸術情報設計学科

芸術や文化について深い理解と、コミュニケーションの形成に関する専門知識をもち、社会に新たな価値を創出することのできる総合力と企画力を備えたメディア環境の設計家を養成するために、芸術文化論、メディア設計学、情報環境学という3つの分野に関する教育を行う。芸術文化論分野では、芸術・文化への洞察を深め、人間と調和のとれたメディア環境の創造と表現、国際的視野を持ったコミュニケーションのあり方を学ぶ。メディア設計学分野では、革新的・創造的な設計能力を体得するために、高度情報通信社会におけるメディア環境の中で、実際に何をどう設計するかを学ぶ。情報環境学分野では、最適なメディア環境を計画・設計し開発していくための基礎となる情報科学や数理工学分野を学びます。また、学際的な各種プロジェクト演習を通じて、独創的で人間性に富み、かつ論理的な課題解決案を提案できる実践的な能力の育成に取り組んでいる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/kyushu-u/about/info>)

(概要)

【2020年度以降入学者】

九州大学では、九州大学教育憲章の理念と目的を達成するために、高等学校等における基礎的教科・科目の普遍的履修を基盤とし、大学における総合的な教養教育や専門基礎教育を受け、自ら学ぶ姿勢を身に付け、さらに進んで自ら問いを立て、創造的・批判的に吟味・検討し、他者と協働し、幅広い視野で問題解決にあたる力を持つアクティブ・ラーナーへと成長する学生を求めている。

その中で芸術工学部では、本学部の理念である「技術の人間化」に基づき、技術を人間生活に適切に利用するための道筋を設計する「高次のデザイナー」の養成を目的とし、以下のような学生を求めている。

- ・多様化・複雑化している今日の社会課題を発見・提起できるように、芸術工学に関連する様々な専門知識を修得させる。
- ・広い視野に立って複数の専門分野の人々と協力しながら課題解決へ向かうための知識や技能を修得させる。
- ・新たな価値の創出や課題解決に向かうプロセスを明確化し、企画・実践するための知識や技能を修得させる。
- ・自らの感性や専門的知識を活用しながら、考え方を効果的に表現・伝達するための知識や技能を修得させる。

【2019年度以前入学者】

○ 環境設計学科

学部共通での「(3) 感性」に係わるものとして下記の学生を歓迎する。

- ・空間的なイマジネーション。室内、広場、風景といった空間の広がりや脳裏にありありと思いつかべようとする意欲とその能力。
- ・時間的なイマジネーション。現代の環境が、どのような過去からの経緯でできているか、それを改善するために未来に向かってどう提案するかという意欲とその能力。

○ 工業設計学科

学部共通の求める学生像に関連して、工業設計学科では特に次のような資質を持つ学生を歓迎する。

- ・高等学校で学んだ科目を確実に習得し、幅広い教養を身につけていること。
- ・人間とは何かを考え、モノづくりや美に対して関心が高いこと。
- ・豊かな人間性、創造性、チャレンジ精神を備え、社会的視点を持って物事を考え、実践する努力を惜しまない意欲があること。

○ 画像設計学科

幅広い分野の体系的・専門的な勉学を進めるために、その基礎となる多様な学問領域にわたる高い学力およびその柔軟な応用能力を持ち、画像・映像を始めとする視覚情報に係わる新しい学問領域や応用領域を開拓していく意欲と可能性を持つ人材を求める。

○ 音響設計学科

音響設計学科では、私たちの日常生活の環境の中にある様々な音に着目し、これを人間に適した快適な音環境とするための計画・設計を学び、そのような専門知識と研究開発能力の両方を共に備えた人材の育成を目指している。

入学した学生たちは、科学的思考力、音に対する高い感性に裏付けされた、音響科学技術に関する専門的知識を身につけるために、様々な分野・領域の勉強をする必要があります。このため理工学的素質とともに芸術的感性をも有する学生を歓迎する。

○ 芸術情報設計学科

学部共通での感性に係わるものとして、下記の資質のある学生を歓迎する。

- ・対話と交流のセンス。他者への強い関心と時代感覚を持ち、多彩なメディアを駆使し人間生活を豊かにしようという意欲とその能力
- ・数理工学的なセンス。新たなメディア環境のツールやソフトを開発してみようという意欲とその能力。

学部等名 農学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/for_examinee/admission_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>地球規模での食糧問題と環境問題の克服に向けて人類の英知が試されています。このような状況下、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、そして人類の健全な発展に貢献することは、農学に課せられた使命です。私たち人類が食料・衣料・住居を消費しながら生存し続けるためには、地球上で唯一の永続的かつ環境負荷を伴わない生物資源を生産し、それを加工・利用するための科学技術を創造していかなければなりません。生物資源の科学を中心に据え、それをとり巻く環境問題から社会問題に至るまでの幅広い問題を取り扱う総合科学として農学があります。農学は、生命体としての動植物から細胞、分子にいたるまでの生命の営みを人類の福祉に役立てることを目的として、新たな飛躍の時代を迎えています。</p> <p>九州大学農学部は、農学の使命を達成するための多様な人材を育成することを目的として、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく豊かな課題探求能力とバランス感覚を備えた人材の育成を行っています。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/for_examinee/diploma_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>21世紀に予測される地球規模での食料問題と環境問題を克服し、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉に貢献することは、農学に課せられた使命である。農学部では、農学の使命を達成するための多様な人材を育成することを目的として、農学関連諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりでなく、豊かな課題探求能力と課題解決能力を備えた人材を組織的に養成する。</p> <p>生物資源生産科学コース 応用生物科学コース 地球森林科学コース 動物生産科学コース</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/for_examinee/curriculum_policy/)</p>
<p>(概要)</p> <p>農学は、生命科学、環境科学、社会科学等の広範な学問分野にまたがる生物生産と利用のための学問です。すなわち、農・林・水・畜産業とそのフィールドとしての環境及び関連の二次産業を含めた「広い意味の農業」を対象とする応用の学問ですので、生物学、化学、物理学のみならず経済学など多岐にわたる学習経験が非常に重要となります。そのため、農学部はあたかも一つのユニバーシティともいえる総合的な教育体制をとっています。</p> <p>具体的には、農学部は1学科すなわち生物資源環境学科から成っていますが、その中に生物資源生産科学、応用生物科学、地球森林科学、動物生産科学の4コースが設置され、各コースはそれぞれ複数の専門分野から構成されています。このような総合的な教育体制の中で、幅広い教養と専門知識を備えた人材の育成を行い、新しい時代の要請に応えています。</p> <p>高校卒業後間もない諸君にとって、農学の広い学問領域から自己の適性にあった進路を選択することは必ずしも容易ではないと思われれます。そこで入学後1年半の間に全学教育科目と低年次専攻教育科目の履修を通して、農学に関する基礎知識を学び農学の全体像を把握したのちにコース選択するように配慮しています。</p> <p>すなわち、農学部では入学者を学部一括して受け入れ、所定の単位の修得を条件に2年次後期の開始時に所属コースを決定します。この決定は2年次前期に行われるコース希望</p>

調査に基づいて行われますが、希望者が集中したコースについては入学してから2年次前期までの成績で上位の者から優先して配属コースが決定されます。このコース配属方式では、自己の適性にあったコースを決定することができる一方、希望コースに配属されるためには、優秀な成績を修める努力が要求されます。

また、コース配属と同様の方式で、3年次前期開始時までには履修分野を決定します。コースによってはコース配属時に履修分野も決定します。卒業研究（卒業論文）指導教員は、通常4年次前期開始時に決定します。

入学者の受入れに関する方針
 (公表方法：http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/for_examinee/admission_policy/)

(概要)

農学部では、生物生産、生物機能、生物環境等の農学に関連する幅広い知識を身につけさせること、国際的に通用する専門性及び技術を習得させること、バランス感覚を備えた人材を育成することを主眼に教育を行っています。そのために、農学部では以下のような学生を求めています。

- ・生物生産、生物機能、生物環境等の農学関連分野に強い関心を有し、将来これらの分野で活躍を目指す意欲的な学生を求めています。
- ・農学部の教育・研究は、自然科学から社会科学にまで及ぶ広範な基礎科学と応用科学に立脚していますので、これら広範な領域におおらかに対応できる学生を求めています。
- ・国際的に活躍する土台となる高度な語学能力を持ち、自己の語学能力の向上に熱心な学生を求めています。

学部等名 21世紀プログラム

教育研究上の目的
 (公表方法：<http://www.21cp.kyushu-u.ac.jp/about/housin.html>)

(概要)

21世紀プログラムは、自らの専門性を自律的な学修活動によって獲得し、幅広い学問領域に対する理解を基盤とした特定の専門分野に関する深い専門性を有し、21世紀の政治、経済、科学・技術、社会、文化においてリーダーシップを取る新しいタイプの人材として、従来の学問分野の枠組みをこえて幅広い視野を持ち、現代社会における問題発見、課題設定とその解決能力に優れた“専門性の高いゼネラリスト”を養成する。

卒業の認定に関する方針
 (公表方法：<http://www.21cp.kyushu-u.ac.jp/about/housin.html>)

(概要)

21世紀プログラムにおいて学んだ学生は、卒業（学位の授与）に際して、次の目標に到達することが期待される。

- ・幅広い基礎知識、経験、想像力を持ち、現代社会の諸問題を自分自身の課題として捉えることができる
- ・国内外を問わずに活動する行動力と卓越した語学力によるコミュニケーション能力を有する。問題解決のためのリーダーシップやチームワークの経験を持ち、問題解決へ向けた優れた実行力を持つ
- ・自分自身の興味・関心に根ざしたテーマを設定して研究に取り組み、そのために必要な知識や技能を獲得する方法論を理解している
- ・特定の分野において専門性を獲得しながら、近接する幅広い領域についての関心を持ち、分野の独自性と分野間の共通性を理解している
- ・研究の成果を論文および口頭で発表する豊富な経験を持ち、社会へ向けてかみくだいた

分かり易い説明をすることができる
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.2lcp.kyushu-u.ac.jp/about/housin.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>ディプロマ・ポリシーに到達するため、学部横断型であること、少人数教育であることを中核とした下のようなカリキュラムを編成する。本プログラムは、既存の大学・学部の教育編成とは全く異なる。それは大きく分けて次の4つの柱に分かれる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チュートリアル・システム 2. 現代社会を捉えるための徹底した基礎教育 3. 国際的人材の育成 4. 大学外部との交流の促進 <p>学生は自分で立てた研究計画に沿って、研究遂行に必要なカリキュラムを作成し受講することになるが、そのために教員による個別指導(チュートリアル・システム)を採用する。チュートリアルに並行して、本プログラムでは現代社会のさまざまな問題を考えるための基本的な知識を身につける。それは、これまで「教養」と呼ばれてきた知識と重なるものがあるが、ここで考えられる「教養」は現実の社会と無縁な知識ではない、知識そのものを組み替えてゆくようなダイナミックな知識である。課題提示科目などでこうした新しい「教養」を学びながら、さらに学年を縦断したプログラム・ゼミによって、表現力や説得力も身につけていく。また、本プログラムの目的の一つである「日本という枠組みの外」を指向する真の国際人の育成のため、専門的議論に必要な語学力を強化し、上の「教養」教育と連動して、「使える」外国語を目指す。その上で、一定の条件を満たした学生に対しては、国際的な視野と知力を身につけるため、半年から1年の海外留学や、短期の海外語学研修を推奨する。さらに、本プログラムで学ぶ学生は、大学の内側と外側とを横断したさまざまな場で学習・研究することが期待されている。このため、国内外の大学での履修科目や、企業や自治体、民間企業(NGOなど)でのインターンシップも、一定の基準を満たしていると認定されれば、取得単位として認められる。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : http://www.2lcp.kyushu-u.ac.jp/about/housin.html)</p>
<p>(概要)</p> <p>自ら今日的な諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その解決をめざして学修する自主性があること。文系・理系にこだわることなく、広い分野の学修を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探求能力を高めることによって自らの能力を最大限に発揮して行こうとする意欲があること。学問を深く学ぶための基礎的な能力を身につける努力をいとわず、積極的に学修を進める意欲があること。現代の政治・社会、歴史・文化、自然などに関する基本的知識を一定以上身につけていること。海外留学に必要な英語を含め、相当の語学力を身につける意欲があること。これらの学生像に照らし、主体的に学び考える能力を測定するために、教科融合型・総合的な課題に取り組む選抜を実施する。</p>

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法 : <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	14人	—					14人
大学院	—	571人	560人	81人	475人	7人	1,694人
附属病院	—	9人	19人	55人	242人	1人	326人
附置研究所	—	65人	61人	0人	62人	0人	188人
その他	—	54人	73人	8人	28人	1人	164人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		984人					984人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
九州大学教育改革推進本部のウェブサイトにて、FD開催用のウェブページ（FDポータル）を設置し、各 部局で開催されるFD情報の発信、参加登録及び参加者数の確認などを実施できる仕組みを導入し、FDの 参加促進を図っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
共創学部	105人	103人	98%	330人	318人	96%	人	人
文学部	151人	154人	102%	622人	697人	112%	人	人
教育学部	46人	50人	109%	192人	214人	111%	人	人
法学部	189人	202人	102%	778人	840人	108%	人	人
経済学部	226人	241人	107%	932人	1,047人	112%	20人	7人
理学部	258人	278人	108%	1,070人	1,195人	112%	5人	5人
医学部	257人	260人	101%	1,256人	1,336人	106%	人	人
歯学部	53人	53人	100%	318人	326人	103%	人	人
薬学部	79人	83人	105%	378人	391人	103%	人	人
工学部	778人	798人	103%	3,164人	3,510人	111%	人	43人
芸術工学部	187人	192人	103%	778人	847人	109%	人	6人
農学部	226人	231人	102%	910人	988人	109%	人	人
合計	2,555人	2,645人	104%	10,608人	11,709人	110%	25人	61人
(備考) 編入学定員は、経済学部及び理学部のみ設定 学校基本調査上、21世紀プログラムは、各学部の定員内で計算されている。								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	155人 (100%)	15人 (9.7%)	119人 (76.8%)	21人 (13.5%)
教育学部	50人 (100%)	16人 (32%)	31人 (62%)	3人 (6%)
法学部	202人 (100%)	28人 (13.9%)	130人 (64.4%)	44人 (21.8%)
経済学部	247人 (100%)	15人 (6.1%)	182人 (73.7%)	50人 (20.2%)
理学部	288人 (100%)	219人 (76%)	55人 (19.1%)	14人 (4.9%)
医学部医学科	112人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	112人 (100%)
医学部生命学科	9人 (100%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)	0人 (0%)
医学部保健学科	129人 (100%)	38人 (29.5%)	89人 (69%)	2人 (1.6%)
歯学部	49人 (100%)	0人 (0%)	0人 (0%)	49人 (100%)
薬学部創薬学科	47人 (100%)	45人 (95.7%)	0人 (0%)	2人 (4.3%)
薬学部臨床薬学科	26人 (100%)	0人 (0%)	25人 (96.2%)	1人 (3.8%)
工学部	856人 (100%)	696人 (81.3%)	132人 (15.4%)	28人 (3.3%)
芸術工学部	203人 (100%)	106人 (52.2%)	85人 (41.9%)	12人 (5.9%)
農学部	242人 (100%)	166人 (68.6%)	67人 (27.7%)	9人 (3.7%)
合計	2,615人 (100%)	1,352人 (51.7%)	916人 (35%)	347人 (13.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
九州電力、福岡県、富士通、日産自動車、ニトリ、三菱電機、パナソニック、トヨタ自動車、トヨタ自動車九州、福岡銀行、福岡市、日立製作所、日本製鉄、マツダ、JFEスチール、川崎重工業、全日本空輸、デンソー、鹿児島県、浜の町病院、福岡赤十字病院、西日本鉄道、ダイキン工業、NTTドコモ、三菱ケミカル、三菱重工業、鹿島建設、日本アイ・ビー・エム、九州旅客鉄道(JR九州)、旭化成、東ソー、日鉄ソリューションズ、村田製作所、住友化学、西日本電信電話(NTT西日本)、ヤマハ発動機、オービック、本田技研工業、日本原子力研究開発機構、東海旅客鉄道(JR東海)、飯塚病院、NTTデータ、麻生、三井住友銀行、大和証券、三菱UFJ銀行、西日本旅客鉄道(JR西日本)、大成建設、九州中央病院、塩野義製薬、気象庁、京セラ、KDDI、佐賀県、長崎県、LIXIL				
(備考)				
%は小数点1位以下切り捨てとしている。				
学校基本調査上、21世紀プログラムは、各学部の定員内で計算されている。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)をシラバスシステム(以下のウェブサイト)に掲載している。</p> <p>到達目標及び成績評価の方法や基準を、学生に分かりやすく説明するため、ルーブリックによる成績評価の導入を推奨している。</p> <p>公表方法(シラバスシステムにより公表)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ https://syllabus.kyushu-u.ac.jp/
--

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>学修の成果に係る成績評価において、GPAの客観的な指標を設定している。また、GPA 2.0以上を卒業の目安とし、卒業認定を全学部にて実施する予定である。(平成28年度入学者適用)</p> <p>到達目標及び成績の基準については、ルーブリック評価を導入し学生に基準等がわかりやすいような工夫を実施している。</p> <p>また、学習支援システムにて、学生の学習ログ、教員とのコミュニケーション情報や日誌等テキストデータにより学生の学修状況の把握に努めている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
共創学部	共創学科	124 単位	有	
文学部	人文学科	128 単位	有	
教育学部		124 単位	有	
法学部		128 単位	有	48 単位
経済学部	経済・経営学科	126 単位	有	
	経済工学科	126 単位	有	
理学部	物理学科	124.5 単位	有	
	化学科	124 単位	有	
	地球惑星科学科	124 単位	有	
	数学科	124 単位	有	
	生物学科	124 単位	有	

医学部	医学科	205 単位	有	
	生命科学科	125 単位	有	
	保健学科 (看護学専攻)	142 単位	有	
	保健学科 (放射線科学専攻)	145 単位	有	
	保健学科 (検査技術科学専攻)	145 単位	有	
歯学部	歯学科	249 単位	有	
薬学部	創薬学科	128 単位	有	
	臨床薬学科	190 単位	有	
工学部	建築学科	131 単位	有	
	電気情報工学科	129.5 単位	有	
	物質科学工学科	134.5 単位	有	
	地球環境工学科	133.5 単位	有	
	エネルギー科学科	131.5 単位	有	
	機械航空工学科	130.5 単位	有	
芸術工学部	芸術工学科	128 単位	有	
	(環境設計学科)	128 単位	有	
	(工業設計学科)	128 単位	有	
	(画像設計学科)	128 単位	有	
	(音響設計学科)	128 単位	有	
	(芸術情報設計学科)	128 単位	有	
農学部	生物資源環境学科	125 単位	有	
21世紀プログラム		124 単位	有	
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/gpa/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/campus>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
全学部		535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>新入生へのガイダンス、履修相談、進路相談、授業料等免除、奨学金など幅広い支援を行うとともに、学部生による「新入学生サポーター」や、大学院生による「学習サポーター」「図書館サポーター (Quter キューター)」など学生による学生支援にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、障害等により修学上の配慮が必要な学生について、キャンパスライフ・健康支援センターを中核として、合理的配慮の形成や修学環境の整備を行っている。</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学内での企業説明会など年間に30件以上(外国人留学生用、障害学生用を含む)のイベントやセミナーを開催するほか、九州インターンシップ推進協議会等の関係団体と連携したインターンシップを実施するなど、多様なキャリア支援を行っている。</p> <p>また、各キャンパスに全学的な就職相談員を配置するほか、一部の部局は就職担当教員を置くなど、学生からの就職相談に対応している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>キャンパスライフ・健康支援センターでは、医師、保健師、看護師、カウンセラーなどが、専門的な見地から、心身の健康、修学上の悩み、生活習慣の改善(肥満防止や禁煙指導など)等、身体的なものから心理的なものまで様々な相談に対応している。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : http://www.kyushu-u.ac.jp/ja/university/publication/education/
--